

名古屋市の人とペットの共生に関する取り組みについて、
SNSで情報発信しています。
シェアや、いいね!をしていただくことも支援になりますので、
ご協力をお願いします。

名古屋市 動物愛護センター

名古屋市千種区平和公園
二丁目106番地
電話番号
052-762-0380(代表)



公式 Facebook

<https://www.facebook.com/nagoya.doubutuaigocenter/>

公式 Instagram

<https://www.instagram.com/n.doubutsuaigocenter/?hl=ja>



名古屋市 人とペットの共生 サポートセンター

名古屋市熱田区金山町
一丁目5番2号
クマダ77ビル2F
電話番号
052-681-2211



公式 Facebook

<https://www.facebook.com/kyousei.support.nagoya/>

公式 Instagram

<https://www.instagram.com/support.nagoya/?hl=ja>



公式 X (旧Twitter)

https://x.com/dog_cat_support

人とペットの共生推進プランについてはこちらから



発行・編集

名古屋市健康福祉局生活衛生部食品衛生課

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

●電話番号 052-972-2649 ●ファックス番号 052-955-6225

●電子メールアドレス a2649@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp

発行年月 令和6年10月

SAVE DOGS & CATS

ACTIVITY REPORT

犬猫サポート アクティビティレポート

2024



目指せ殺処分ゼロ!

犬猫サポート寄附金を活用した

年間活動の報告書です。

ふるさと納税で
名古屋市の活動を応援!



名古屋市



令和5年度 動物愛護センターでの取り組み

長期収容犬のケア(トレーニング・介護)

近年、動物愛護センターでは、性格(攻撃性)、高齢、病気等の理由で譲渡までに時間を要する長期収容犬が増えています。

人を咬んでしまったことがきっかけでセンターに引き取られたダイゴ(柴犬、オス、推定15歳)は、収容して5年になります。体は少し大きめですが、結構小心者です。和犬気質でテリトリー意識が強く、別の犬が近くを通ると激しく吠えかかります。もともと体を触られることが苦手で、無理に触ると咬みついてしまいます。ダイゴは散歩でしか排泄しないため、毎日の散歩が必須です。収容当時は首輪を触ることが困難で、常にリードをつけたままにしておくしかありませんでした。ダイゴの“咬みスイッチ”はどこにあるのか、職員は注意深く観察し、咬むタイミングや状況を把握することに努めました。直接首輪を触らなくてもリードの着脱ができるように、首輪にショートリードを装着するなど、センターで咬む経験をさせない管理を継続して行うことで、ブラッシングやシャンプーなど徐々に受け入れられることを増やしていきました。

そんなダイゴも今ではすっかりおじいさん犬

になり、以前のような激しさはありません。足元がおぼつかなくなり、眠っている時間が長く、夜鳴きや徘徊もするようになりました。もともと食欲にムラがあり、ダイゴが「食べたい」と意思表示したフードを職員が選んで食べさせていましたが、最近は自分からフードを食べることがなくなり、介護食を補助して与えています。一日でも長く穏やかな日が続くようこれからもケアを続けます。

嫌なことを回避するための手段として、咬むことを学習してしまった犬のトレーニングは、非常に根気のいるものです。咬む犬にさせないためには、犬の習性を理解して適切なトレーニングを行うことがとても大切です。犬の飼い方啓発について、様々な教室事業で、これからもたくさんの方に伝えていきます。

慢性疾患を持つ長期収容猫の看取り

長期収容猫の中には、センターで寿命を全うする猫もいます。令和5年度は猫の「ジェミニ」をセンターで看取りました。ジェミニ(雑種、メス、推定5歳)がセンターにやってきた理由は、元飼主からのやむを得ない事情による引取りで

した。令和4年11月の収容当時は健康状態に問題はなかったのですが、令和5年1月に食欲低下と嘔吐がみられ、血液検査をしたところ、腎不全と診断されました。それから毎日の点滴が始まりました。点滴の効果で腎数値が落ち着き、食欲が回復したジェミニですが、今度は点滴を嫌がるようになりました。5月にふたたび食欲がなくなり、腎数値の悪化や貧血がみられたものの、治療により持ち直したこともあり、病気に立ち向かうジェミニの生命力には本当に脱帽でした。その後も一進一退を繰り返していましたが、令和6年1月になると、腎数値の上昇や重度の貧血により状態が悪化していきました。職員も精いっぱいの治療やケアを続けましたが、ある朝、穏やかな顔をして眠っているジェミニがいました。未明に亡くなったようで、寂しい気持ちとともに、よく頑張ったね、と職員みなでお別れをしました。センターで過ごした期間は1年3ヵ月でした。センターを応援してくださる皆さまのおかげで最期まで治療を継続し、看取ることができました。



治療中の成猫ジェミニ

FIV(猫免疫不全ウイルス)キャリア猫について

FIVキャリア猫でも積極的に新しい飼主さんを募集しています。FIV感染症という病気について獣医師が丁寧に説明し、譲渡を希望される方が安心して飼っていただけるように努めています。また、譲渡を待つFIVキャリア猫の情報発信にも力を入れています。令和5年度は、長期収容猫にスポットを当てた“推しねこ”紹介ウィーク

第6弾「チームFIV(4頭)」として紹介し、3頭について新しい飼主さんとのご縁を結ぶことができました。



“推しねこ”チームFIV (SNS画像)

動物愛護センターの譲渡会

子猫の収容が少ない秋から春の時期を「おとなの猫(成猫)の譲渡シーズン」と考え、「動物愛護センターで暮らす、おとなの猫の譲渡会」を5回開催し、多くの猫たちが新しい飼主さんへとつながる機会を増やしました。譲渡会には非常にたくさんの方に来場していただき、慢性疾患を持つ猫やFIVキャリア猫を含む多くの成猫が新しい飼主さんと結ばれました。



譲渡会の風景



「ねこの譲渡会」ポスター

令和5年度は、30頭の犬と、長期収容猫をはじめ様々な個性を持った709頭の猫を譲渡につなげることができました。皆さまから寄せられた心のこもった寄附金がなければ、こうした個性ある犬猫の長期間の飼育や治療は行えませんでした。心から感謝申し上げます。これからも職員一丸となって、不幸な犬猫がいなくなる日を目指して全力で取り組んでいきますので、温かいご支援をお願いします。

名古屋市動物愛護センター

※上部中央の写真は、最近のダイゴの様子で、流動食を与えているところです。